



健やかな老後は 全身を診る老年内科から

当科では、高齢者の臓器横断的、総合的な内科診療を行い、包括的高齢者総合機能評価(CGA)に基づいて生活機能の向上をめざしている。多職種スタッフによるチーム医療を実践し、高脂血症や高血圧症などの生活習慣病合併症の予防と治療、さらに認知・記憶力障害の早期診断・治療、また主要な要介護原因となる骨折を防止するための骨粗しょう症の診断・治療を行っている。高齢者の初期診療、そして地域の救急に応える診療、漢方外来の開設も当科の特徴である。

代表的診療対象疾患

さまざまな発熱性疾患、急なADLの低下を伴うような疾患、感染症、心脑血管障害、原発不明の悪性腫瘍、肺炎、糖尿病、骨粗しょう症、認知機能障害、術前評価、高脂血症、消化管機能異常症、低栄養症、廃用症候群など

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

外来通院患者は80歳代(4,278人)が最も多く、70歳代(4,198人)、60歳代(1,522人)がこれに続く。

高齢者は、慢性あるいは急性の経過をとる複数臓器の疾患を有していること、その臨床経過は時に非典型的であり、原因のいかんによらず、全身症状やADLの低下を伴うことが多い。そのため幅の広い鑑別診断と臓器の予備能力、生活能力を勘案した治療選択が求められる。疾患の軽快・安定後も、家族ならびに社会的支援を必要とする患者さんも多い。

外来診療においては、複数臓器の疾患を総合的に扱う加齢総合外来を中心に、高齢者に特徴的な疾患の専門外来を行っている。高齢者の総合機能評価(Comprehensive Geriatric Assessment; CGA)外来では、各種神経心理検査、認知・行動機能などの生活機能評価、院内他科入院中の高齢者の機能評価にも応じている。専門外来として、老年神経内科外来、動脈硬化・骨粗しょう症外来、アンチエイジング外来、物忘

れ外来、漢方外来を開設している。

入院診療体制と実績

入院診療についても、当科かかりつけのみならず、地域の医療施設との連携を図り、幅広く紹介患者を受け入れている。



地域医療の取り組み

研究会の開催や患者さんの紹介も

2003年度より、地域の医療施設との連携をめざして研究会を開催し、患者さんの紹介、逆紹介を積極的に行っている。2013年3月10日に「高齢者の病気とうまくつきあうためには」と題して第13回公開市民講座をキャンパスプラザ京都で開催した。また京大病院老年内科 濱川慶之氏に「認知

症と向き合う 私の介護経験を通じて」、同産科婦人科 江川美保氏に「女性と骨粗鬆症」、名古屋大学地域在宅医療学・老年科学分野 葛谷雅文氏に特別講演「健康長寿と栄養」の講演をいただき、たいへん好評であった。